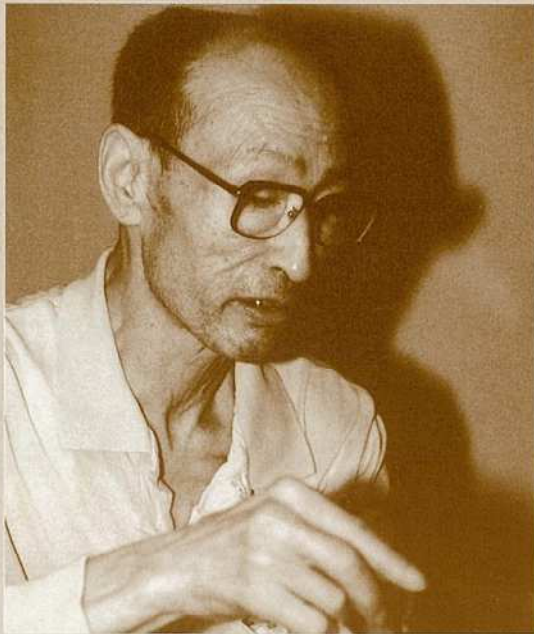


# 伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



## べっ甲

ひら いわ やす まさ  
平 岩 保 政

(昭和62年度作品)

16ミリ映画・ビデオ  
カラー・16分

### プロフィール

住所、荒川区町屋1-20-17。

明治43年(1910)、東京都生れ。

昭和60年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定。

大正11年小学校卒業後、下谷実務学校に入学。大正13年同校卒業。大正14年(16歳)から6年間、浅草猿屋町の角倉勇次郎氏(同氏の師は長崎の人)に弟子入りして、小間物師としてのべっ甲細工の技術を修得した。

昭和7年4月、23歳で独立し平岩亀甲眼鏡枠製作所を創立した。昭和20年3月、戦災で栃木へ疎開したが、昭和25年現在地へ移り、現在では後継者の息子、一之氏(昭和8年1月1日生)と孫の勝さんと三代そろって眼鏡フレームをこしらえている。

保持者は、東日本べっ甲組合から技能優秀者として、昭和59、60年の2年連続推薦を受け、両年とも都知事賞を受賞している。優れたべっ甲眼鏡の製作技術は、業界内外で高い評価を得ており、区にとって貴重な技術である。

企画 東京都荒川区教育委員会 ・ 製作 毎日映画社



## 用具・工具

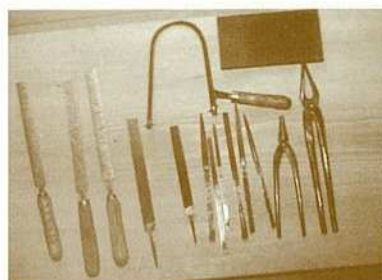
水桶、金板、プレス機（べっ甲を接着する）、みぞ掘り機（レンズをはめ込むための溝を掘る）、小刀、台木、ヤスリ各種類、ノギス、ネタバ（ヤスリを研ぐ）、糸ノコ、サンドペーパー、ヤナギのつぎ板、コテなど。

## 工程 — 「とろ甲」の眼鏡の場合 —

（材料）べっ甲細工は海ガメの一種であるタイマイの甲羅を材料とする。

甲羅の部分によって「白べっ甲」、「とろ甲」、「ばらふ」などの種類に分けられる。

- (1)最初の工程は【積り】と呼ばれる甲羅からの生地取りである。
- (2)ひな型に合わせて、線書きをする。
- (3)線書きした部分に水をつけて、傷の有無を確認する。
- (4)線書きしたワクに沿って生地を糸ノコで切り出す。
- (5)メガネの各部分を切り出していく —
- (6)厚味の足りないところは、他のべっ甲から模様の似た部分を探し出す。
- (7)接着面を雁木・ヤスリで削る。
- (8)小刀で生地を十二分にならし、不純物を除く。
- (9)サンドペーパーをかける。
- (10)べっ甲をヤナギの「つぎ板」にはさみ、上下から焼いた金板をあてがい、プレス機で圧着する。
- (11)さらに強い圧力を加え、べっ甲の一枚板をつくる。
- (12)プレス機から取り出したべっ甲を再び金板でむし、さらに冷やしてゆがみを直す。
- (13)メガネの各部分を合わせ、水をつけ、コテを当て仮付けする。さらにプレス機にかけ圧着する。
- (14)下ワクはレンズのひな型に合わせてまるくする。
- (15)二つのワクを一つにつなぎ、メガネの鼻の部分を取りつける。
- (16)みぞ掘り機を使って、フレームの内側にレンズをはめ込むための溝を作る。
- (17)最後に「ばふ」で磨き、べっ甲独特の光沢を出す。



（糸のこで切り出す）



（完成品）

この記録〈ビデオテープ〉は荒川区教育委員会社会教育課及び、荒川区内の各図書館で貸し出しています。なお〈16mm映画〉は社会教育課及び、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。どちらも貸出期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。但し、〈16mm映画〉の貸出には団体登録と16mm映写機講習修了者の操作が義務づけられています。

### 〈問い合わせ先〉

荒川区教育委員会社会教育課……………3802-3111（内線3358）  
荒川図書館……………3891-4349      町屋図書館……………3892-9821  
尾久図書館……………3800-5821      日暮里図書館……………3803-1645  
南千住図書館……………3807-7114